

強相関電子物性 理論研究会 プログラム

湯河原荘

2008年2月11日—2月13日

() 内が講演時間です。

2月11日(月)

13:10-13:50 田村 雅史 (理研) 三角格子スピン液体周辺の電子相---有限温度での格子歪
や2キャリアの効果など (40分)

14:10-14:25 渡邊 努 (名大工) 三角格子ハバード模型における支配的な磁気秩序状態
(15分)

14:30-15:00 Coffee Break

15:00-15:30 河野 昌仙 (物質・材料研究機構) 空間的異方性のあるフラストレートした
反強磁性体におけるスピノン (30分)

15:40-15:55 林 勇太 (東大理) 一次元的異方性を持つ三角格子スピン系の RVB 平均場
解析 (15分)

16:00-16:30 遠山 貴己 (京大基研) 電子伝達を担う鉄-硫黄クラスターの電子状態
(30分)

夕食

2月12日(火)

9:00-9:30 渡辺 真仁 (東大工) 2次元量子スピン液体の性質とその起源について—電子
系とヘリウム3の系の比較— (30分)

9:40-9:55 横山 寿敏 (東北大理) モット転移におけるダブロン-ホロン束縛の効果につ
いて (15分)

10:00-10:15 黒木 和彦 (電気通信大学) Na_xCoO_2 と LiRh_2O_4 の大きな熱起電力
の起源:プリン型バンドによる解釈 (15分)

10:20-10:50 Coffee Break

10:50-11:20 有田 亮太郎 (理研) 有機導体の downfolding の実現にむけて (30分)

11:30-11:45 石橋 章司 (産総研計算科学) 単一成分分子性金属の第一原理電子状態
計算 (15分)

11:50-12:05 木野 日織 (物質・材料研究機構) 静水圧下の α -(BEDT-TTF) $_2$ I $_3$ の電子
状態 (仮題) (15分)

昼食

2月12日(火)

14:00-14:30 草部 浩一 (阪大基礎工) グラファイトエッジ状態を発生するナノグラフェン接合構造の理論設計 (30分)

14:40-14:55 片山 新也 (名大理) α -(ET)₂I₃ 塩におけるゼロギャップ状態と磁気的性質 (15分)

15:00-15:15 小林 晃人 (名大高等研究院) α -(BEDT-TTF)₂I₃ のゼロギャップ状態におけるホール効果と軌道反磁性 (15分)

15:20-15:50 Coffee Break

15:50-16:20 野村 健太郎 (東北大理) グラフェンにおけるゼロ質量ディラックフェルミオンの特異な量子輸送現象 (30分)

16:30-16:45 白川 知功 (千葉大理) ドープされた半導体における乱れの効果と超伝導 (15分)

16:50-17:05 坂井 徹 (SPring 8) 擬一次元量子スピン系の磁場誘起相転移 (15分)

2月13日(水)

9:00-9:30 古賀 昌久 (京大理) ニバンド模型における軌道依存モット転移 (30分)

9:40-9:55 伏屋 雄紀 (東大理) 三角格子 t-J-K 模型の基底状態: 二次元 3He の有効模型として (15分)

10:00-10:15 大塚 雄一 (SPring 8) 擬一次元 1/4-filled 拡張ハバード模型でのスピンパイエルズ転移 (15分)

10:20-10:50 Coffee Break

10:50-11:05 田中 康寛 (分子研) 2次元有機導体における構造変化を伴う電荷秩序と光誘起融解 (15分)

11:10-11:25 吉見 一慶 (東大物性研) 電荷秩序近傍における電荷感受率、スピン感受率の解析 (15分)

11:30-11:45 堀田 知佐 (京都産業大) 異方的三角格子系における電荷の強相関物性 (15分)

11:50-12:05 妹尾 仁嗣 (SPring 8) DI-DCNQI₂Ag における電荷フラストレーションと電荷格子結合相転移 (15分)

12:10 Closing